

令和2年 第1回定例会 産業建設委員長報告

令和2年3月16日(月)

8番、今井 義信です。

産業建設委員会に審査付託された議案について、去る3月9日、10日の2日間にわたり委員会を開催し、それぞれ慎重に審査を行いましたので、その経過及び結果についてご報告いたします。

議案第15号「令和2年度岡谷市一般会計予算」中 産業建設委員会に審査付託された部分について、審査の主な点をご報告いたします。

はじめに、所管する各部の、執行体制についてご報告いたします。

まず、産業振興部においては、組織は農業委員会を農林水産課に含め、3課1室で組織し、正規職員41名、会計年度任用職員37名の合計78名とのことでした。次に、建設水道部においては、3課で組織し、正規職員61名であるとのことでした。

次に、款ごとに審査の内容についてご報告いたします。

まず、歳出について、5款 労働費では、採用活動応援補助事業について、委員より、就職情報サイトを活用した市内企業に経費の一部を助成する補助内容について質疑があり、就職情報サイトは、新規学卒者や転職・離職者等が求職活動をするためのツールとして利用するもので、補助内容については、掛かった経費の2分の1の補助率で、限度額30万円として、市内企業に対して補助していくこと。来年度からの実施にあたり、事前に市内企業に向けてアンケートを行なったが、ある一定の採用活動に注力する企業からは、このような情報サイトを活用すると平均して60万から70万円の経費がかかっているとの状況を確認しているため、このような補助率と限度額の設定としたとのことでした。

次に、障がい者等雇用促進事業について、委員より、拡充した内容と期待

される効果について質疑があり、市内企業が障がい者をインターンシップや就労体験で受け入れた場合、現行では1日あたり6千円で5日間を限度に合計3万円を交付となっているが、受け入れ日数を5日から10日間に拡げ、合計6万円に拡充をしたとのことでした。背景としては、定期的に特別支援学校等と情報交換をする中で、障がいのある人が民間企業へ長期の一般就労を目指すうえでは、前段となる就労体験の充実が必要であると考えたことが挙げられるとのことでした。

次に、6款 農林水産業費では、はじめに、本会議において出されました付託事項についての審査内容を申し上げます。

「森林経営管理事業は、諏訪広域6市町村で取り組む新規事業であり、森林台帳の整備も含めて、様々な課題の抽出により効果的に事業が行なわれるよう、審査を深めて欲しい。」との付託事項について、市側より、森林経営管理事業は、各市町村とも新たにに取り組む事業となるため、円滑な事業実施にむけて、諏訪地域においては、諏訪地域6市町村と諏訪地域振興局が協議会を設置し連携して取り組みを進めることとした。協議会では、森林経営管理事業に関する法令、林地台帳の整備やGISを使ったデータ活用、森林経営計画の作成、森林整備手法などについて共同研修を行い、事業実施に向けた準備を行なう。また、来年度は6市町村の中から1箇所モデル事業となる森林を選び、実際に事業を進める中で、共同作業を行なう実践的な研修も予定しており、令和3年度及び4年度においても、残りの5市町村がそれぞれモデル事業を設定して事業を行なう予定である。この他、県林務部に設置された森林経営管理支援センターを通じ、国の施策の動向、全国の先進事例や森林環境譲与税を活用した自治体間連携の取り組みなどの情報も提供されることとなっており、6市町村と諏訪地域振興局が連携し取り組みを行なうことにより、課題等を共有するとともに、その解決策等をフィードバックし、それぞれの市町村が円滑に、森林経営管理事業を進められるように務めていきたいとの答弁がありました。

関連して委員より、この事業の今後の目標や展望について質疑があり、6市町村でモデル事業を選び実践的な勉強をしながら事業を進めていき、岡谷市でも、令和3年度に一箇所地域を選んで実際にモデル事業に取り組みたいと考えている。ただし、初めて取り組む事業である中、実際には、山の所有権は未登記のまま代が変わってしまっているなどの複雑な課題もあるため、大きな

規模でやるのは難しく、慎重に実施のうえ、確実にノウハウを築き進めていきたいとのことでした。また、現段階では今後の具体的な事業規模を示すことはできないが、想定としては、森林環境譲与税を活用した事業であるため、交付される譲与予定の範囲内で進めていくことになるとのことでした。

次に、松くい虫防除対策事業について、委員より、暖冬で、松くい虫の動きもいつもより早まっていると思われるが、監視体制の強化という部分で監視期間をどのように考えているか質疑があり、令和2年度は4月から11月を予定している。松くい虫の発生が確認される前は、5月から10月までの監視であったが、現在は始期と終期を1カ月ずつ延ばして強化している。今年のような暖冬であればマダラカミキリの繁殖や成長も早まることが考えられ、引き続き4月から対応していきたいとのことでした。

次に、農産物販路拡大支援事業について、委員より、出展先の数はどれくらいを想定しているのか質疑があり、大都市圏の展示会については、集客が1,000人以上見込め出店団体が50団体以上の展示会を考えており、東京圏、中京圏合わせて4会場ほど考えている。その他、農業者とは随時相談しながら、より良い出展先も開拓していきたいとのことでした。

委員より、支援事業の予算にしては少ないのではとの質疑があり、岡谷市からの出展農業者としては、特徴的な農産物を売りにする農業者が想定され、現状では、近隣はじめ都市部のマルシェに出展している4つの農業者を想定しているため、予算上は4者分を積算しているが、今後は拡げていきたいと考えているとのことでした。

次に、7款 商工費について、はじめに、商業振興事業について、まず、オカヤペイポイント発行事業負担金について、委員より、オカヤペイとはどういうものか、おかぼんカードは廃止されるのかとの質疑があり、おかぼんカードは令和2年度までポイントが付与され、廃止の時期は未定とのこと。オカヤペイは、キャッシュレス決済の機能とポイント機能を持ち合わせたカードで、現金をチャージして電子マネーとして利用出来、購入時にポイントが付けられ、そのポイントも買い物に使える機能があるとのことでした。

委員より、中小小売店は、レジの機械を新しいものに変えないといけないのか

との質疑があり、レジの機械は、新しくオカヤペイにする場合でも、特に変更は必要ない。今、商工会議所のほうで進めているオカヤペイは、タブレット端末等でアプリをインストールすると使用できる。レジの機械については、経済産業省等での補助があり、導入に関してお金はかからない。現在オカヤペイの申込み店舗は約60店舗あり、2月末現在で機械導入済みの店舗は40店舗強である。4月初旬には多くの店舗でオカヤペイが使えるようになるとのことでした。

委員より、オカヤペイを普及させるためには、行政の管理施設を含め、色々なところで使えるということが絶対条件だと思うので、可能性があるなら、広める、普及するという観点からぜひ検討してもらいたいとの要望がありました。

次に、商店街照明施設LED化促進事業について、委員より、この事業にあてはまる市内商業会の内訳や状況について質疑があり、現在、商業会のほうでLED化をされている商業会は、童画館通り商業会、新屋敷商業会、今休会中ではあるが、中央通り4丁目商業会であり、今後予定されているのは、いとまち商業会、銀座商業会、東銀座商栄会である。その他の地区等で商業会が管理していない街路灯については、道路照明灯という位置づけにより、市や建設事務所、または行政区が管理をしているとのことでした。

次に、インスタグラムを活用した商店魅力発信事業について、委員より、事業のスキームや内容について質疑があり、昨年10月に策定した、岡谷市商業活性化計画のなかで、各個店の魅力を発信することが重要であると位置づけられており、一押しの品など各お店の情報発信をしっかりとっていく。現在は観光協会がインスタグラムを利用しているが、フォロワー数もかなり増えてきている。情報発信という部分でインスタグラムを使い、特に個店にとって広告費がかなりの負担になっているなかで、岡谷市の魅力発信という部分と抱き合わせ、岡谷市内の色々なお店情報を発信していくことを考えている。職員が発信をしていくが、今後各お店から要望があれば相談にのりたいとのことでした。

次に、展示会出展事業について、委員より、海外でやる予定はあるか質疑があり、首都圏で開催される集客力の大きい展示会でやっているが、大規模な展示会なので、外国のバイヤーや外国企業のブースもかなり出展しており、日本人だけではないグローバルな展示会なので、そこでの対応を考えている。海外企業

も重要な販路開拓先として考えているが、大きい展示会については主催者側とも相談して、外国語がわかるようなフォローをしていただける場合もあるし、今回の協同出展以外で、新規受注開拓の補助制度を設けていて、そのなかで海外に販路を開拓するための必要な経費の補助制度もあるとのことでした。

次に、モノづくり集積地SUWAのヒトづくりプロジェクトについて、委員より、プロジェクトの主体や目的、中身について質疑があり、現在行っている諏訪圏6市町村によるSUWAブランド創造事業で、国の地方創生推進交付金を活用し、6市町村で行っている事業である。今年度は信州大学、諏訪圏ものづくり推進機構に委託して、人材育成、産業基盤の維持のために、ものづくり人材の育成の部分と、新たな成長分野への参入で、継続事業として掲げている。来年度からは引き続き同じ委託先にて、事業の進化発展をさせていく。事業については産業基盤を維持していくためには若年層のものづくり人材育成が大変重要なポイントなので、諏訪東京理科大にもアプローチしている。岡谷市が来年度も代表市として、ほかの4市町村とタイアップしての事業となる。ほかの4市町村から予算をもらい、代表市としてこの支出の部分に沿う事業費として計上しているとのことでした。

次に、おかやスポーツツーリズム事業について、委員より、スポーツツーリズム事業としてサイクリングとゴルフはどのように活かしていくのか質疑があり、共に人口減対策として、関係人口の創出の部分と移住定住の部分を含んでいる。小口さんのサイクリング事業については、どちらかというとなら関係人口の創出の部分で考えている。工業振興課の方でおこなっていく部分は、移住定住の方であり、観光資源をゴルフと市街地の散策というもので考え、移住されてきたプロゴルファーの青山さんを人的資源として、岡谷の魅力を伝えていただきたいと考えている。岡谷市では、移住定住、関係人口の創出については各課の専門の部分を活かす形で事業展開し、それを連携することで充実させていきたいと考えているとのことでした。

次に、地域おこし協力隊ブランド推進事業について、委員より、地域おこし協力隊2名のこれまでの取り組みと来年度に向けた総括について質疑があり、今年度の4月より新たに2名を招いて岡谷シルクのブランド化に向けて活動

いただいております、1年目となる今年度の取り組みとしては、実際に岡谷市に住んでいただきながら、シルクをはじめ魅力的な地域資源の掘り起こしや課題について検証をしていただいた。また、東京の銀座NAGANOにおけるPRイベントの発案や、三沢区民農園の養蚕農家にアドバイスにより良質な繭が採れたことなど、経験を活かした積極的な取り組みにより成果を出していただいた。まずは岡谷市を知っていただき課題を掘り起こしていただくことが1年目の総括であり、2年目、3年目は、出てきた課題の解決や岡谷絹工房などの関係機関とも連携を図りながら取り組んでいきたいとのことでした。

委員より、広く外に発信をして市民の反響を見たり提案を求めてみてはどの質疑があり、広報おみやげへの掲載による市民周知はもとより、地域においては、公民館の講座等の中で協力隊の取り組みを知ってもらう機会や、職員向けにも岡谷シルクのブランド化に向けた方向性を知ってもらう研修を開催するなど、協力隊のアイデアを発表する場を考えているとのことでした。

次に、8款 土木費について、はじめに、学校跡地保全対策工事について、委員より、岡谷小学校跡地について、工事が完了する頃にはどのような状況になっておりどうなっていくかなど、地域への地元説明はどのような予定であるのか質疑があり、地元説明については、岡谷総郷の中には岡谷区、新屋敷区、間下区といった地元区が入っているので、業者が撮影した航空写真等により、逐次、現場について情報提供をしている。また、岡谷区では、4月以降にまち歩きイベントの中で工事現場の見学会を予定しており、新屋敷区や間下区においても同じような現場見学会の投げかけはしているが、工事が完了した時点で改めて地元説明会をするという予定は、今のところはないとのことでした。

次に、道水路等維持補修事業について、委員より、前年より大幅に盛り込んだ工事請負費に維持補修の大切さを感じているが、充実させた点や特徴についての質疑があり、今年度よりも約7,000万円増額させた主な内訳としては、計画的舗装繕修事業が挙げられ、社会資本整備総合交付金により道路の路盤まで入れ替えを実施する工事、適正化事業債により表層だけを打ち替える工事があり、そのトータルで約4億9,700万円という事業規模になっているとのことでした。

また、委員より道路照明灯のLED灯リース事業に390万円の計上がある

が、リース料としている理由について質疑があり、岡谷市には、土木課で管理する道路照明灯、橋梁に設置されている照明灯、イルフ童画館周辺の照明灯があり、全部で約460個に及ぶ。全てを購入して取り替えるとなると一般的には1億円近い金額となってしまうため、10年のリース契約にすることで平準化が見込めることからリース料にしているとのことでした。

次に、道路新設改良事業について、委員より、工事請負費が前年より約2億円減額されている理由について質疑があり、総額的な予算については2億円ほど減っているが、主な理由としては、大きな事業の工事費が減ってきていることが挙げられる。現在行なっている長地135号線整備事業は、来年度の2,000万円で、ほぼ終了となり、これにより1億円くらい減っている。また、新西堀保育園周辺の環境整備における道路等の工事も縮小してきているため、減額となった。一方、各区からの要望に対する箇所付け工事の予算である一般新設改良事業費の7,800万円は、若干ではあるが増額計上となっており、地域の要望に応える予算になっているとのことでした。

次に、スマートインターチェンジ整備事業について、委員より、用地買収を行なっていくにあたり、事業内容がかなり明確になってきている中、地元から出ている主な要望はどの質疑があり、地元説明会や相談会などで出されたものとしては、早期実現を望む、意見要望を酌み入れる機会を作って欲しいということ。道路構造や安全対策については、振動対策、環境対策をお願いしたいということ。旧道交差点の安全対策、塩カル対策をして欲しいということ。一番大きなものとしては、湧水路の対策、調査、補償、そして雨水の取水確保をしっかりと欲しいとのことでした。

次に、諏訪湖周サイクリングロード整備事業について、委員より、この県事業における工事区間の予定について質疑があり、本事業は県と2市1町で行なっており、県は、釜口水門からヨットハーバーまでを担当しており、今年度は石舟渡の交差点から武井田川、すわっこランドまでの800メートル区間を8月に完成させており、引き続き、令和元年度の工事として武井田川、上川までの整備を予定している。また、業務委託では、諏訪市境から石舟渡、湊小学校に向けて測量設計を実施している。令和2年度、県は、引き続きヨットハーバー

までの区間を整備していく予定であり、岡谷市側については、湊小学校から釜口水門に向けて測量設計を行なうとのことでした。

次に、立地適正化計画策定事業について、委員より、具体的なスケジュールについて質疑があり、今委員会の中で計画案を説明し、この3月中に都市計画審議会を開催し意見聴取を行なう。同時にパブリックコメントを行なって、HPでも計画を示していき、4月頃に4回の説明会をして意見を吸い上げ、それらの訂正を経て、5月頃には決定していきたいと考えているとのことでした。

次に、住宅管理費について、委員より、住宅管理については市営住宅長寿命化計画に基づき、かなり大胆に多くの住宅の受け入れを中止していくように思われるが、実際の市民の生活の厳しさを踏まえ、どのように評価されているのかとの質疑があり、市営住宅の長期的な管理運営については、市営住宅長寿命化計画により今年度から2028年度までの10カ年の計画となっている。計画当初は、管理個数614戸で、2028年度には384戸を見込んでいる。算定にあたっては現在の入居者数や応募数、人口動態数をプログラムの中で算出している。今現在も、管理個数は601戸であるが、入居者数は、1月末で445戸という状況を踏まえても妥当であるとのことでした。

委員より、この住宅長寿命化計画の途中見直しはあるのかとの質疑があり、現在は具体的なものはないが、社会動態などの変化によっては、検討も必要になるのではとのことでした。

次に、建築指導費について、まず、民間建築物アスベスト飛散防止対策事業について、委員より、民間建築物アスベスト対策補助金について、令和2年度は100万円が計上されており、前年度の900万円から減額されているが、令和元年度の実績について質疑があり、令和元年度は、含有調査と除却工事のための予算を計上していたが、実績としては、含有調査が2件、除却工事は0件であったため、令和2年度予算では含有調査にかかる予算のみの計上としたとのことでした。また、財源は国の補助金から来ており、令和2年度をもって終了予定となっているとのことでした。

次に、宅地耐震化推進事業について、委員より、耐震改修補助金800万円に

ついて、例年と比べ急激な圧縮といえるがその理由について質疑があり、耐震改修補助金の予算は、令和2年度は一般の住宅への耐震改修への補助金となっており、令和元年度はこのほかに、要緊急安全大規模建築物の改修補助ということで湖畔病院の耐震改修に対する補助制度があり、その分が2200万円ほどであったとのことでした。

委員より、耐震改修補助は大変重要な事業であると位置づけて継続していけるものかとの質疑があり、岡谷市では耐震改修促進計画に沿って耐震化をしっかりと進めていく方針であるが、当該計画は令和2年度までの計画となっているため、令和3年度以降は、国、県の動向を見ながら計画の整備をしながら進めていきたいとのことでした。

次に、歳入について、第1表歳入歳出予算中担当部分、第2表債務負担行為中及び、第3表地方債中については、特段質疑等はありませんでした。

次に討論について報告いたします。

産業振興、土木都市計画など、必要な予算が概ね盛られていると感じている。しかしながら、商工業振興補助金においては、小規模事業者に対する支援をもっと手厚くするべきだと考える。また、道水路等維持補修費が前年度より大幅に増加していることは大変歓迎であるが、市民の切実な要望という部分で考えると、まだまだ不足と感じる。加えて、市営住宅の長寿命化計画により、計画的に戸数を減らしていくことについては、今の市民生活の現状や安い家賃で入れる住宅を求める市民の要望を考えれば、計画の見直しや中止が求められると考える。よって本議案に反対する。

一方で、「人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷」を踏まえた、次年度の産業振興、建設水道全般にわたる様々な施策を考えて、予算化されている。新年度予算執行にあたっては、市民の皆さんの立場から考えていただいて、色々な事柄について柔軟な姿勢で予算執行につとめていただくよう要望し、本議案に賛成する。加えて、次の5つを要望して、本議案に賛成としたい。1つ目、ものづくり諏訪プロジェクトは、主体はあくまでも地元の企業と人であることをより明確にして、プロジェクトを進めていただき、そういうレベルでの人材の育成をしていただくということを前面にした取り組みとしてお願い

したい。2つ目、スポーツツーリズムの位置づけというものは、あくまでも地域の資源を商業観光に活用することを目的としたものであるということを踏まえ、商業観光を第一とした取り組みで、そちらの方を主導的に進めていただきたい。3つ目、農産物の販路拡大については、一過性とならないように、販路の持続的な活用ができるような手段の検討をあわせて取り組んでいただきたい。4つ目、展示会及びビジネス商談においては、最初のきっかけづくりという部分は非常に評価できるが、フォローアップ及び海外バイヤー、企業に向けた対応を踏まえて取り組んでいただきたい。5つ目、少子化をのりきるために必要なことで重要なことは、女性が仕事を辞めずに働き続ける環境をいかに整えられるかだと考える。そのために女性雇用促進環境整備支援事業が創設されたと承知している。にもかかわらずソフト事業は現在も10件中0件である。今後は周知につとめ、取り組みを強化するということだが、職場風土を変えるためにも具体的にお考えいただき、共有しながら、企業のトップや管理職とお話いただくことを強く要望したい。

以上、審査の結果、賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第17号「令和元年度岡谷市地域開発事業特別会計予算」について、委員より、歳出のうち4款1項 繰上充用金2億8千万円の予算計上の算出根拠について質疑があり、令和元年度の収入支出見込から算出しているとのことでした。保有地の売却及び賃貸料を収入として見込み、支出では平成30年度予算への繰上充用金3億2千460万円を含めた額を支出見込とする中、収入支出を差し引いた2億8千万円を計上したとのことでした。

委員より、土地取得及び造成費の予算計上について、新たな土地取得の予定はあるかとの質疑があり、具体的な取得予定地はないが、公共事業等の進捗状況に応じた予算として3千万円の土地購入費を確保しているとのことでした。

以上、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第18号「令和2年度岡谷市分収造林事業特別会計予算」について、委員より、森林研究・整備機構負担金が前年より増えている理由はとの質疑があり、岡谷市と同機構との契約の中で、昨年から今年、来年にかけて事業量の

増加を見込んでおり、来年度については、これまでの横河山の他に新たに川岸の新倉山においても、除伐とロープ巻きの事業を予定しているためであるとのことでした。

以上、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第20号「令和2年度岡谷市温泉事業特別会計予算」について、委員より、温泉スタンドについて将来的にはどのように考えているのかとの質疑があり、温泉スタンドは、市民福祉の向上という目的で、平成元年度からスタートし30年を経過しているが、当時に比べると現在の稼働率は20%程度にまで落ち込んでおり、このまま行くと温泉スタンド単体収支は10年以内に赤字が見込まれる。しかしながら、水道課としては、福祉のためにも温泉スタンドは継続していきたい意向であり、令和元年からの大口のお客である松本のホテル業者を訪問し、継続利用の確認や運搬業者の情報を収集するなど温泉の販路拡大に向けた取り組みも行なっているとのことでした。

以上、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第23号「令和2年度岡谷市水道事業会計予算」について、委員より、今井上向配水池の施設再構築について、令和2年度はどのようなことを予定しているのか質疑があり、工事については、令和元年から2年度、3年度と3カ年の工事を予定しており、元年度は造成工事を行った。来年度は本体の築造を行なう。本体は、耐震性に優れ、容量約4800立米のサイズを検討しているとのことでした。

委員より、委託料として計上されている片間町送水ポンプ場詳細設計と今井上向配水池との関係について質疑があり、片間町送水ポンプ場の役割は、新しい今井上向配水池と連携して使われるものであり、片間町送水ポンプ場には長地地籍で横河川左岸の水源からの水を集めて、今井上向配水池に送水をしていくとのことでした。

次に、討論について報告いたします。

安全でおいしい水の供給のための令和2年度予算編成のご苦労に感謝したい。

適切な管理を進めながら、設備の更新や管路の長寿命化、耐震化等、水道事業計画に基づく施設の再構築も計画的に進めていくことが盛られている。水道料金については令和2年度から令和4年度までの3か年は据え置きとの方針が示されており、歓迎するものである。よって、本議案に賛成する。

以上、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第24号「令和2年度岡谷市下水道事業会計予算」について、委員より、雨水渠整備事業の山下幹線と小井川幹線はどのような計画で行なわれるのか質疑があり、まず、山下幹線は、100ミリ安心プランに基づき塚間川の県の河川工事に併せて下水道雨水渠整備をするも、平成27年から事業がスタートしており、郷田幹線の整備は平成30年に完了している。今年度山下幹線の測量設計委託を行い、令和2年から令和5年度の完成を目指し諏訪信用金庫本店から県道檜川岡谷線に向け雨水渠の整備を行なっていくものである。令和2年度については、塚間川から上流に向かって延長約100メートル、1350ミリのヒューム管を布設していく予定である。2つ目の小井川幹線は、岡谷南高校前の32号線（湖岸線）を横断する護美沢川の改修である。令和元年の8月19日に時間68.5ミリという降雨があり、その際に道路横断部分から水が溢れ、周辺のアパート等で床下浸水などの被害があったことから、対策をとる工事となる。こちらは岡谷市の雨水渠事業の計画に含まれており、1800ミリ四方のボックスカルバートを約50メートル布設するとのことでした。

次に、討論について報告いたします。

未接続世帯への対応を進めながら、管路の長寿命化や耐震化を継続的に進めるなど、維持管理を着実に進め、一方で消費税対応を除けば、長年下水道使用料据え置きを継続しており、令和2年度も健全な下水道事業運営をしていくための予算が盛られていると考える。また雨水渠の整備についても、安全安心をかなえるための対応と考える。よって、本議案に賛成する。

以上、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしましたので、報告いたします。

報告は以上であります。